

蒲生干潟周辺の塩分濃度

■蒲生干潟周辺の塩分濃度の測定を行った。

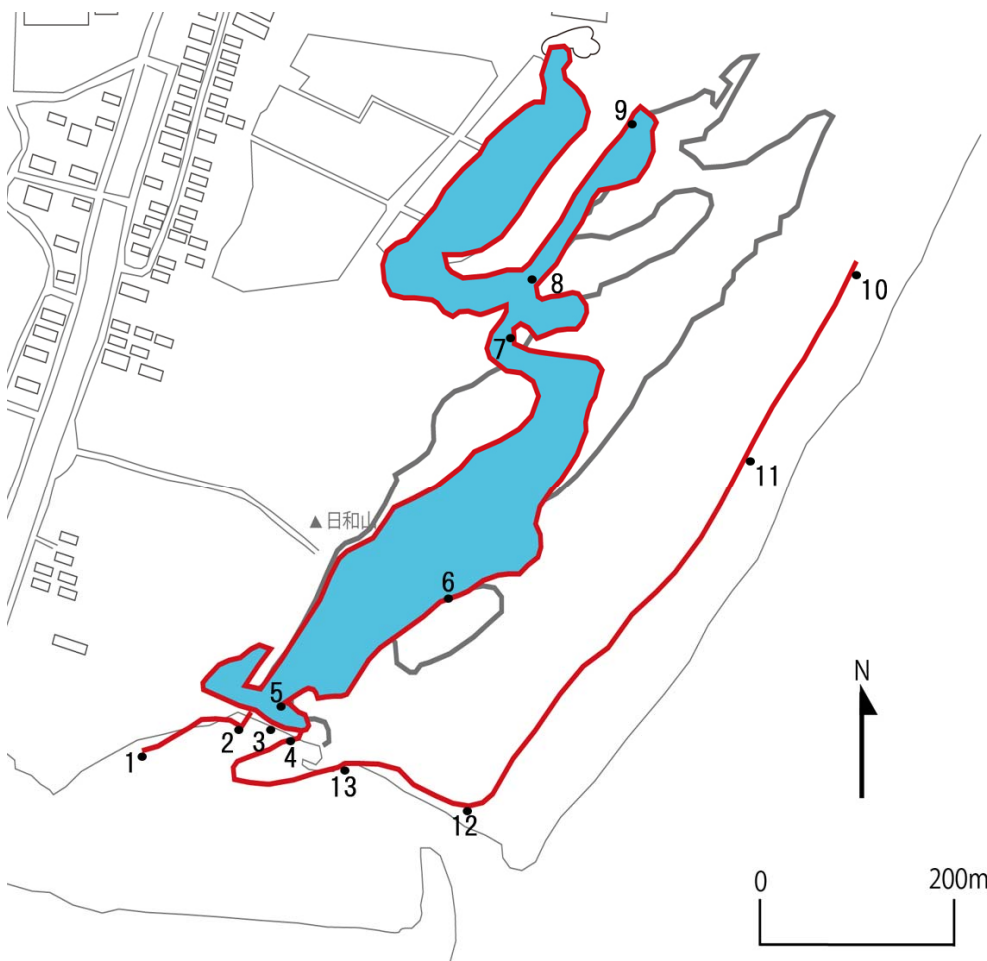


Fig.1 採集箇所（赤線は、2016.1.8にトレースした線）

地点	塩分濃度(%)		
	1回目	2回目	平均
St.1	1.9		1.9
St.2	1.3	1.9	1.6
St.3	1.6	1.7	1.7
St.4	2.5	2.1	2.3
St.5	2.6	2.5	2.6
St.6	2.6	2.6	2.6
St.7	1.8	2.1	2.0
St.8	2.3	2.2	2.3
St.9	1.8	1.8	1.8
St.10	3.3	3.4	3.4
St.11	3.4	3.3	3.4
St.12	3.3	3.2	3.3
St.13	1.1	1.3	1.2

Table.1 各地点の塩分濃度
（採集は表層のみ）

蒲生調査レポートNo101の調査と同日同時間に、蒲生干潟周辺の塩分濃度を測定した。塩分濃度の測定は、2012年11月に七北田川の河口付近の調査（蒲生調査レポートNo46）を行って以来である。No46の調査では、七北田川の感潮域を調べたが、今回は導流堤通水部付近の七北田川流域と潟湖、海岸線の塩分濃度を測定した。採水は、表層部からスポイトを用いて行い、濃度の測定は、簡易海水濃度計（アタゴ社製PAL-06S）を使用した。

採水地点は、Fig.1に示したとおり、13カ所について実施した。St.10～12は、海岸線なので塩分濃度は3.2～3.4%となっており、日本近海の表面塩分とほぼ等しい。潟湖内は、1.8～2.6%の塩分濃度で汽水である。潟湖内の塩分濃度は一定ではなく、St.7・9は、1.8%程度で、St.5・6は、2.6%程度と高めである。この潟湖内の塩分濃度の違いがなぜ起きるのかについては、今後調査を継続することで明らかにしていきたい。また、塩分濃度は動植物の生育に大きく影響を及ぼすので、これらの関係についても考えていきたい。

（花田 義輝）